

地域の安全・安心のために

交通指導員・防犯指導員辞令交付式

11月4日、役場庁舎で町の交通指導員と防犯指導員の辞令交付式が行われ、交通指導員21名、防犯指導員7名に辞令が交付されました。交通指導員の隊長に小原則夫さん（後三年）、防犯指導員の隊長に湯川安宏さん（西高方町）が新たに任命されました。

松田町長は「町の基本となる安全・安心の下支えとして、今後も尽力していただきたい」とあいさつを述べました。両指導員の任期は平成28年10月末までの2年間です。



▲湯川安宏さん

▲小原則夫さん



美郷中学生が熱弁を展開

中学生防火防災弁論大会

11月6日、美郷中学校で平成26年度中学生防火防災弁論大会が開催されました。弁論大会は、中学生の防火防災意識を高めるとともに、地域住民の防火防災活動・意識の普及啓発を図るため、秋田県消防協会大仙仙北美郷支部が主催しています。

大会には、大仙・美郷の4中学校から5名が登壇し、東日本大震災での教訓や避難所開設訓練、事故に遭遇した出来事や防火対策など、体験や自分の思いを織り交ぜながら、熱弁を振るいました。審査の結果、最優秀賞には大曲南中学校3年の小場心愛さん、優秀賞には美郷中学校3年の富樫穂乃加さんと同校2年の伊藤浩士さんが輝きました。



◀左／富樫穂乃加さん
右／伊藤浩士さん



読書をもっと身近に

ビブリオバトル高校生県南大会

11月8日、美郷町学友館でビブリオバトル高校生県南大会が開催されました。ビブリオバトルとは、出場者がおすすめ本を紹介し、参加者が読みたくなった本を投票する書評合戦イベントです。

バトルには、湯沢翔北高校から3名、六郷高校から4名が出場し、推理小説やライトノベルなどのさまざまなジャンルを紹介。制限時間5分間の間にあらすじや本との出会いなどを挙げ、自身のおすすめする本の魅力をPRしました。その後、発表を聞いた約30名の参加者が投票し、六郷高校の富岡光さんが紹介した「超訳・般若心経」（三笠書房）がチャンプ本に選ばれました。



創生から現在～そして未来への架け橋～

美郷町体育協会設立10周年記念事業

11月9日、美郷町公民館で美郷町体育協会（中村立夫会長）の設立10周年記念事業が開催されました。中村会長は、旧町村の体育協会の合併から現在に至るまでの経緯に触れ、「この10年間で多くの選手が県内外の大会で活躍している。子どもや選手たちの活躍には、町、学校、スポーツ少年団などが健康面や技術面、環境面で支えることが必要。みんなで、さっとなつ、ともに頑張りましょう」とあいさつしました。加盟団体による演武では、千矢弓道会が矢渡しと射礼を、武術太極拳真昼会が太極拳と太極扇を披露。日ごろの活動の成果が実演されると、参加者たちからは盛大な拍手が送られました。

MISATO TOPICS

町の話





4個人1団体に芸術文化賞を授与 美郷町芸術文化協会設立10周年記念式

11月16日、美郷町公民館で美郷町芸術文化協会（高橋進会長）の設立10周年記念式が開催されました。式では、長年にわたり地域の芸術文化の向上に貢献された方など下記の4個人1団体に芸術文化賞が授与されました。その後、受賞者による発表や、花火研究家の小西亨一郎さんによる「大曲の花火が世界一と呼ばれるわけ」と題した講演が行われ、設立10周年の節目をお祝いしました。



▲(後列左から)仙南大正琴同好会の梅川涼子さん、川本摩耶さん、(前列左から)米沢利一さん、佐藤昭夫さん、佐藤定子さん



- 功労賞 せんはた松並コール 佐藤 定子さん(一丈木)
六仙会 佐藤 昭夫さん(下鍵田)
- 奨励賞 仙南書道同好会 米沢 利一さん(中島・藤原)
- 栄光賞 仙南大正琴同好会
美郷中学校 川本 摩耶さん(2年)

節目の想いと形

美郷町長 松田知己

風



美郷大使記念鼎談でコーディネーターを務める松田町長

「**扁額**」という言葉、みなさんへはご存知でしょうか。門戸などに掲げる横に細長い額のことです。実は私が知ったのは社会人になる間際でした。教えてくれたのは何かと本を読んでいた亡き父です。「社会人として覚えていた方がいいだろう」との認識だったんでしょう、飲食の折に教えてくれました。

記憶では、その言葉を教えてもらいすぐ頭に浮かんだのが、母校横手高校の講堂に掲げられていた「天佑自助」という額。

「天は自ら助くるものを助く」という意味ですが、高校生の時は「大きな額だなあ」程度の認識でしかなく、不謹慎ながらどういう意味で誰が書いているのか、全く興味ありませんでした。裏返すとその程度の生徒だったわけです、恥ずかしながら。

そして扁額という言葉を知ったあと、社会人になるという高揚感も相まってか、「大きな額だなあ」程度の書が急に深みのある書に価値が高まり、「もっと勉強しとけばよかったなあ」と反省に至ったことも覚えています。知識の有る無しで、一物の価値は変わり得るということなのだろうと思います。

さて先月の美郷町合併10周年記念式典、お陰様で滞りなく終えました。この節目に当たり私は、扁額にする目的で美郷大使

の皆さんに揮毫をお願いしました。そのココロはこの節目を未来に繋がる形で残すこと。前述の経験も含め考えた結果、大使扁額を学校に掲げ、想いを伝える企画としました。

町田大使と佐々木大使、高階大使からは揮毫いただくとともに、永田大使からはなんと絵画をいただきました。本欄を借りて改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。未来に向けた美郷町の大切な財産となります。

その扁額と絵画、今年度中に学校に配置し、子どもたちが自然に目にするところに掲げてもらう予定です。子どもたちが扁額や絵画から何を受け取り、どういう記憶を残すか楽しみなところです。また、町民みなさんにも是非見てもらいたく、学友館に一定期間展示します。どうかご覧ください。

「想いを形に」。私の好きな言葉です。大使の想いは扁額と絵画として形にしてもらいました。私の想いは学校に掲げてもらうことで形になります。